

I 学力調査の概要

平成31年4月、文部科学省により、小学校第6学年および中学校第3学年の全児童・生徒を対象に、「全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学、英語）」が実施された。また、6月には、練馬区教育委員会により、練馬区立中学校第3学年および小中一貫教育校第9学年の全生徒を対象に「練馬区立学校学力調査」（社会、理科）を実施した。本報告書では、両調査の結果を併せて報告する。

● 全国学力・学習状況調査

（1）調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

（2）調査内容

教科に関する調査

- ・国語、算数・数学、英語（中学校）
次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。

（イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容。

※英語においては、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」に関する問題を出題。ただし、「話すこと」調査に係る特例的な措置に伴い、調査結果としては「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。

質問紙調査

- ・児童・生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）
- ・学校に対する調査（学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等）
※本報告書では、児童・生徒に対する調査を取り上げている。

（3）調査対象

小学校第6学年および中学校第3学年の全児童・生徒

（4）調査対象児童・生徒数

練馬区立学校児童	国語	5,300人	算数	5,300人		
練馬区立学校生徒	国語	4,102人	数学	4,103人	英語	4,103人

（5）調査実施日

平成31年4月18日（木）

● 練馬区立学校学力調査

（1）調査の目的

学習指導要領に示された教科の目標および内容が生徒にどの程度身に付いているかの実態を把握し、授業の改善を図る。

（2）調査内容

社会、理科

（3）調査対象

練馬区立中学校第3学年および練馬区立小中一貫教育校第9学年の全生徒

（4）調査対象生徒数

社会	4,137人	理科	4,140人
----	--------	----	--------

（5）調査実施日

令和元年6月5日（水）

設問別集計結果・解答傾向の見方

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の公立校の集計結果および練馬区立学校学力調査の集計結果を基に、両調査の表形式に準じて一部を抜粋、再編成している。
両調査の集計結果の用語に準じているため、表記は必ずしも一致しない。

【用語解説】

- 「正答率」 調査対象児童・生徒のうち、設問に対して正答した児童・生徒の割合
- 「平均正答率」 児童・生徒の正答数の平均(平均正答数)を百分率で表示したもの

Ⅱ 学力調査の結果 (p. 4~19)

●全国学力・学習状況調査(国語、算数・数学、英語)

「平均正答率(全体)」

- ・「1 結果概要 ① 領域・観点別正答率表」の分類・区分の「全体」の平均正答率は、国語、算数・数学、英語のそれぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)である。
- ・学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率である。

「解答類型」

「4 課題のある設問」の解答類型は、解答を正答(複数の解答類型が正答となる設問もある)、予想される誤答、それ以外の誤答、無解答に分類している。

教科全体の傾向や課題を概観

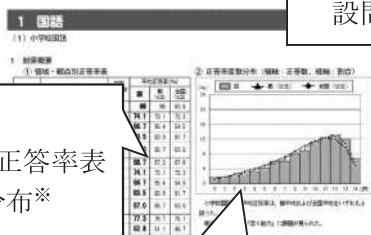
誤答や無解答(どこでつまづいているか)等に
着目した設問ごとの状況

3 設問別集計結果一覧表

設問別の問題情報および区正答率、都平均、全国平均を示す。

1 結果概要

- ①領域・観点別正答率表
- ②正答率度数分布*



*横軸は
正答した問題数

2 課題と授業改善の手だて

結果を受けて、教科全体としての課題と、授業改善の手だてについて分析・解説している。

4 課題のある設問

区正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より1題を取り上げ、その解答状況について記載している。

●練馬区立学校学力調査（社会、理科）

「評価の観点」

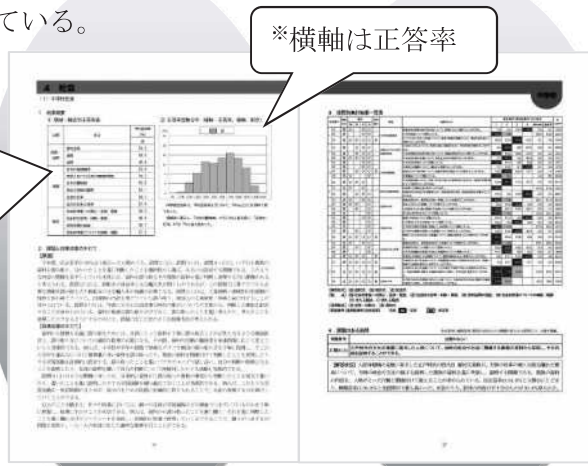
練馬区立中学校および小中一貫教育校生徒指導要録の「指導に関する記録」における「観点別学習状況」の評価の観点である。

「類型番号（選択肢番号）別出現率」

小問別に解答を、正答および準正答、予想される誤答類型、類型外解答、無解答に分類し、それぞれに属する生徒の割合を表示している。

なお、準正答は0.5ポイントで算出している。

- 全国学力・学習状況調査に準ずる
- 1 結果概要
 - ①領域・観点別正答率表
 - ②正答率度数分布*
 - 2 課題と授業改善の手だて
 - 3 設問別集計結果一覧表
 - 4 課題のある設問



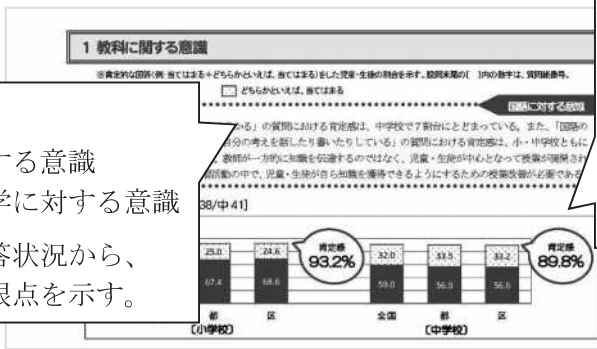
Ⅲ 質問紙調査の結果 (p. 20~29)

1 教科に関する意識

考察

p. 22：国語に対する意識
p. 23：算数・数学に対する意識

それぞれの回答状況から、課題や指導の着眼点を示す。



肯定的な回答割合

各教科4題を取り上げ、それぞれの項目に対して肯定的な回答 (例：当てはまる+どちらかといえば、当てはまる)をした児童・生徒の割合を「肯定感」として示す。

2 生活の状況

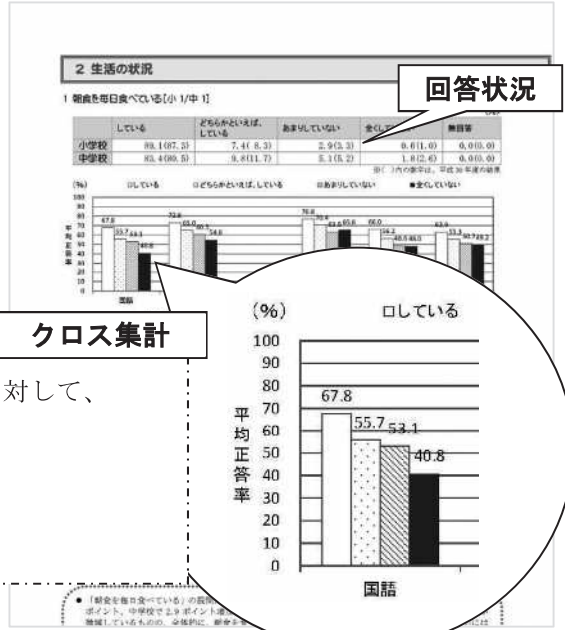
学校や家庭における状況

3 学習の状況

学習習慣、読書、授業における学習姿勢

4 自分自身についての意識

現在の状況と将来の展望



例)

「朝食を毎日食べていますか」(小学校)に対して、

- ・「している」と回答した児童の
→国語の平均正答率は67.8%である。
- ・「全くしていない」と回答した児童の
→国語の平均正答率は40.8%である。

